

教材名「コンピュータで楽譜を書こう」

目 標

- ・ 読譜に慣れ、楽しみながら読譜することができる。
- ・ 音符や記号を正しく選び、五線に貼り付けることができる。

コンピュータを活用する利点

本ソフトでは、楽譜を見ながら音を聞くと音が出ている部分の音符が赤く光る。音符や音楽記号（視覚）と演奏の音（聴覚）のつながりを強めさせることが期待できる。常に楽譜を意識しながら音を聞くことに慣れさせたい。また、「音の概念」を楽譜に置き換えることで、読譜への抵抗感を無くし、興味を持たせたい。

授業の流れ

ソフトの具体的な操作方法の説明を聞く。

音符や休符、記号の意味を思い出すと共に、楽譜入力の方法の説明を聞く。

音符・休符の選択
間違った音の修正
拍子記号の入れ方

3種類の楽譜の中から一曲選び、画面上の楽譜に音符等を入力する。

入力した楽譜を再生させ、自分の入力した楽譜を確認しながら曲を楽しむと共に、間違い箇所を修正する。

ICT 活用場面

本学年の児童は、他の教科の授業で何度かパソコン教室での授業を受けており、一人でパソコンを使った経験はあるが、教材として用いた「音楽帳5」のソフトを使った活動は初めてである。

「難しい」「分からない」といった抵抗感を持たせないように、教室前にあるプロジェクターの画面で手順を確認しながら丁寧に指導した。



児童は、自分の画面とプロジェクターの画面を照らし合わせることで、操作手順を理解しながら活動できた。

また、パソコン操作・読譜共に慣れている児童とそうでない児童の差が大きいため、曲の長さ・読み取りの難易度が異なる3曲の楽譜を用意し、児童が個人の能力に合わせて活動できるように配慮した。

成果と課題

児童は、パズル感覚で五線譜に音符を置き、楽しみながら楽譜を完成させることができた。また、今まで耳や指で曲を覚えていた児童たちも、楽譜を見ながら曲を聴くことができた。音楽作りの活動をするには、音符や記号の意味をもっと定着させたい。

ICT 活用環境等

使用周辺機器	教師用パソコン（デスクトップ） 児童用パソコン（ノート）・児童用ヘッドホン プロジェクター
使用ソフト	音楽教育ソフト「音楽帳5」（KAWAI）
使用教室	パソコン教室